

「ゼロエミッション」と「人へのやさしさ」をテーマにした活性化への取り組み

江 刺 商 工 会 議 所

機関名	江刺商工会議所			
所在地	岩手県江刺市大通り 3 - 14			
電話番号	0 1 9 7 - 3 5 - 2 5 1 4			
地域概要	(1)管内人口	3万4千人	(2)管内商店街数	7 商店街
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数	4 商店街	(2)会員数	120商店
	(3)空店舗率	12%	(4)大型店空き店舗数	- 店
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 <u>3. 地域型商店街</u> 4. 近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

平成14年度 活性化対策事業

- ・ 市民交流施設の開設
- ・ オリジナルエコバッグの創作・普及
- ・ 市民が触れ合える蔵まち・ふれあい・ふるさと市事業の開催

総事業費

7,799千円

【事業実施内容】

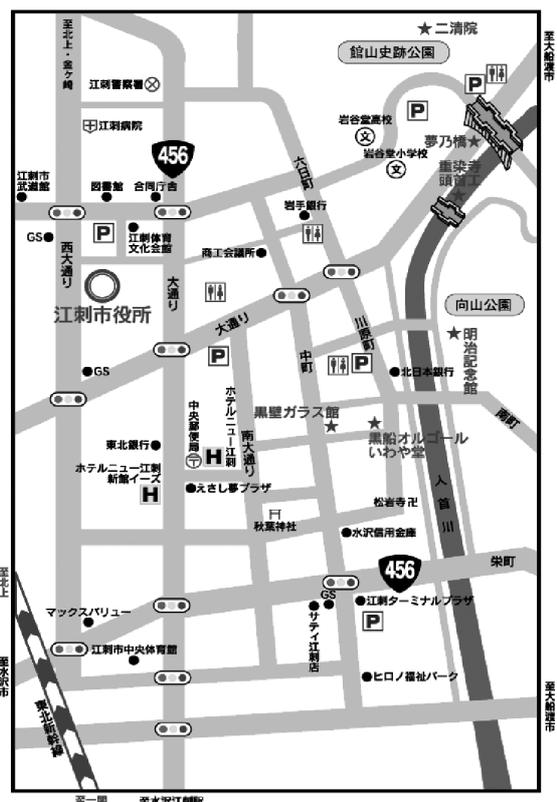
1. 背景

江刺市は岩手県中南部に位置する人口3万4千人の田園文化都市である。現在、「音」と「蔵」をテーマとして個性のある商店街の整備が進められており、「蔵の街・えさし」として、県内外からの視察や来街者の増加をもたらしている。

また、江刺市の中心商店街は古くからタンスや菓子、酒、味噌などの工場が立ち並ぶ職人の街であり、国の伝統工芸品の指定を受けている「岩谷堂箆笥」は全国的に有名である。

しかしながら、依然として中心商店街は、来街者の購買意欲を高める商品や店舗の魅力に欠けており、大きな社会・経済環境の変化の中で、地域ニーズの変化に十分応えているとは言えない状況にある。

こうした変化に適応する中心商店街を構築するため、「ゼロエミッション（環境）」と「ひとへのやさしさ（高齢化対応）」をテーマに、良好な商



江刺市の市街地地図

業空間の創出と来街者に対する利便施設の整備を進め、リピーター顧客の増加と商業者の意欲向上を図ることを目的として本事業を実施した。

2. 事業内容

(1) 市民交流施設の開設

「ゼロエミッション」と「人にやさしい」商店街づくりを進める拠点施設として、空き蔵を活用した市民交流施設「蔵まち交流館」を開設した。

環境への配慮とリサイクルについての理解を広く市民や来街者に持ってもらうため、(財)いわてクリーンセンターや、資源リサイクル協会などの協力を得て、リサイクルへの取り組み事例をパネル等で紹介した。

また、陶器や竹細工など高齢者の生産施設の作品や一般市民の手作り作品を展示した。さらに、地域情報を提供し、市民や来街者の交流やお休み処とするため、地域情報に詳しい人を案内人として配置した。

【開館実績】

- ・期間 平成14年10月5日～平成15年2月28日
- ・開館日数 103日間（休館日：月、火曜日）
- ・来館者数 2,148人（1日平均21人）

(2) オリジナルエコバッグの創作・普及

「エコバッグ創作」を広く市内外に募集し、コンクール形式の審査会において優秀作品を選出した。コンクールは「意匠・デザイン部門」と「完成品部門」の2部門で募集したところそれぞれ11作品の応募があった。

100個を試作して市内関係団体へ無料配布し、市民のゴミ減量に対する意識啓発を図った。また、市民交流施設「蔵まち交流館」に応募作品を展示し、来館者にも資源の重要性和エコバッグの意義をPRした。



市民交流施設「蔵まち交流館」の外観



エコバッグの応募作品は「蔵まち交流館」に展示

江刺商工会議所

(3) 蔵まち・ふれあい・ふるさと市事業

1) 行灯バザー（夕市）の開催

平成14年10月5日、手作りの行灯を「蔵まちモール」の歩行者専用道路に装飾・点灯し、「行灯バザー（夕市）」を開催した。絵付けされた行灯は江刺商工会議所が市民から作品を募集したもので、幼稚園・小学生をはじめとしたグループや個人から27の応募があった。

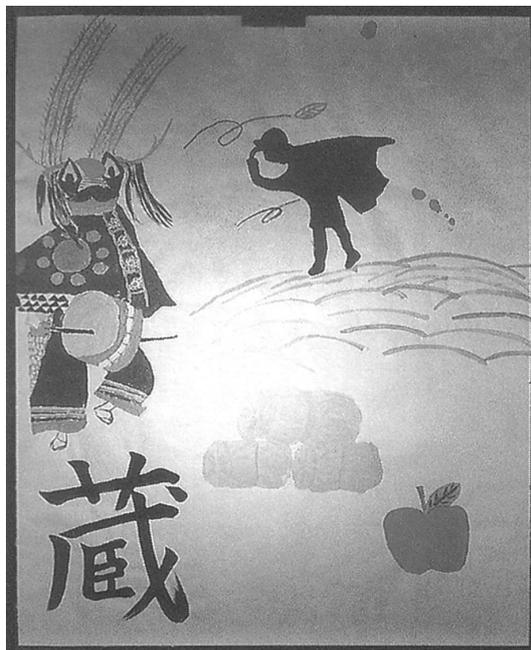
会場では51の商業者が出店し、市内外の物産品や環境にやさしいエコ商品、手工芸品などを販売した。フリーマーケットや郷土芸能の公演なども行われた。

2) ふれあい市の開催

平成14年10月5日、6日の2日間、新鮮な無農薬野菜をはじめ、環境にやさしい自然食品やリサイクル商品等を「蔵町モール」で販売した。

あわせて高齢者の介護用品販売や相談会、電動モーターカーの試乗体験を実施し、「やさしさのある商店街」をPRした。

また、神楽・太鼓などの伝統芸能披露や、中学生による合唱の発表により、「ふれあいの場」の演出を図った。



幼稚園・小学生などから応募が寄せられた手作り行灯

【効 果】

「ゼロエミッション」と「人にやさしい」商店街づくりを進めるため、商店街内に「市民交流施設」を設置し、環境問題への配慮とリサイクルについてのPR活動を行い、商店街や一般市民、観光客等への周知に大きな効果があった。また、これらに関連した各種イベントにおいても大きな集客効果があり、商店街活性化に寄与した。

(1) 市民交流施設の開設

近年環境保護やリサイクル意識向上への啓発活動が活発化しているが、身近な場所でこのような問題を知る機会はほとんど無かった。このため、興味のある問題としてリサイクルの土壌作りなど市民や来街者に定着し始めた。

また、高齢者などの手作り作品の展示や、地域情報に詳しい案内人を配置したことにより、市民・来街者の交流の場となった。

(2) オリジナルエコバッグの創作・普及

ごみの減量化や省資源化に対して消費者の意識高揚につながった。また、地元商業者の中には、来街者がエコバックを持って買い物に来た際には、値引きのサービスを行っていききたいなど販売促進への意欲も高まり、今後の商店街活性化、並びにエコバックの普及促進につなげていける良いきっかけとなった。

(3) 蔵まち・ふれあい・ふるさと市事業

「行灯バザー」の開催は、これまでの商店街には見られない彩りの空間を創出し、商店街で独特の雰囲気を味わうことができると、来街者・商店街とも非常に好評であった。製作者側からもまた行って欲しいとの反響が多かったことから、新たな商店街の魅力として今後につなげることができた。



「行灯バザー（夕市）」は好評を博した

無農薬野菜や自然食品、リサイクル品等の販売においては、環境問題について消費者や地元商業者の更なる意識啓発を図ることができた。

また、高齢者をバックアップをするための相談会や、介護用品の展示・販売、電動モーターカー試乗体験の設置により、高齢化社会を見据えた「やさしさのある商店街」をPRすると共に、地元商店街での購買を促進する手段の1つとしても大きな成果を得た。さらに、古くから受け継がれている郷土芸能など「地域文化の素晴らしさ」を再確認する場ともなり、訪れた来街者からも多くの評価を得た。

【課題・反省点】

- (1) 消費者ニーズと商店街ニーズとの整合性を図りながらの事業実施が基本となるが、その調整には様々な配慮が必要になる。
- (2) 各事業において、広い意味での市民参加事業であることが成功の要因となる。

【教訓】

「環境」と「高齢者」をテーマにして事業を行ったが、街の規模や特徴を十分考慮する必要がある。事業を推進していく上で、マンネリ化にならないように考慮する必要がある。

【関連URL】

江刺商工会議所 <http://www.rnac.ne.jp/~esashi/>